

【必須】下記の□について、あてはまる項目に✓をすること。

- 申請時と比べて、世帯人員が変わらない。
- 申請時と比べて、世帯人員が変わった。

※世帯人員が変わった場合は別様式での申請となりますので、窓口まで御連絡ください。

### 生活困窮者住居確保給付金支給申請書 (期間再々延長)

フリガナ	
①氏名	
②生年月日	年 月 日 満( )歳
③電話番号	- -

④ 期間再々延長を希望しますので、以下申し立てます。

→【必須】再々延長申請月の世帯全員の収入額を記入してください。

※ 世帯全員の収入金額を記入いただき、全員分の収入金額のわかる書類を添付してください。

※ 年金や児童手当、失業手当等就労以外の各種手当収入も合算して記載してください。

申  
立  
事  
項

※手当収入含む世帯全員の収入月額

私の再々延長申請月における世帯全員の収入額は、  円 です。

→【必須】再々延長申請日の世帯全員の預貯金額を記入してください。

※ 通帳写し等は必要ありませんが、基準額を超えている場合等、確認させていただくことがあります。

※申請書の記載日現在の世帯預貯金額

私の再々延長申請日における世帯全員の預貯金額は、 約  円 です。

※ただし、単身世帯252,000円, 2人世帯390,000円, 3人以上世帯500,000円が上限となります。

私は、住居確保給付金の支給決定を受けましたが、支給期間の再々延長を希望しますので、上記の申立事項に相違なく、必要書類を添えて申請します。

私の個人情報が、住居確保給付金の支給並びに臨時特例つなぎ資金及び総合支援資金の貸付を行うために必要となる範囲で、都道府県等、公共職業安定所、社会福祉協議会及び自立相談支援機関の間で相互利用されることについて了承します。

また、裏面の注意事項について、同意します。

年 月 日

京 都 市 長 殿

申請者氏名

(注 意 事 項)

1 申請内容は正しく記載してください。偽りその他不正の行為によって住居確保給付金を受けたり、又は受けようとしたときは、以後住居確保給付金を受けることができなくなるばかりでなく、不正受給した金額の全部又は一部を徴収されることとなります。

【参考】生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）

第27条 偽りその他不正の手段により生活困窮者住居確保給付金の支給を受け、又は他人をして受けさせた者は、三年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。ただし、刑法(明治40年法律第45号)に正条があるときは、刑法による。

- 2 再々延長受給中は、公共職業安定所に求職の申し込みを行うとともに、誠実かつ熱心に求職活動を行う必要があります。
- 3 支給に関して必要な範囲で、法第21条に基づき、報告等を求めることがあります。
- 4 支給決定に必要な範囲で、法第22条に基づき、都道府県等から資産又は収入の状況につき、官公署に対し必要な文書の閲覧若しくは資料の提供を求め、又は銀行、信託会社その他の機関若しくは離職した事業主その他関係者に対し報告を求めることがあります。
- 5 支給決定に必要な範囲で、法第22条に基づき、申請者の居住する賃貸住宅の家主等に対し入居状況について報告を求めることがあります。
- 6 則第14条に基づく就労支援に関する都道府県等の長の指示に従わない場合は、支給を中止します。
- 7 則第17条に基づき、本給付金は原則として賃貸住宅の家主等に直接振込等をされることにより申請者に対する支給となります。
- 8 上記で申告した収入額・資産額について証明することのできる書類は、自治体から後日求めることがありますので、再々延長申請後も適切に保管して下さい。

(添 付 書 類)

- 1 【全員】状況報告書（〇月〇日× 令和3年〇月の状況報告）
- 2 【就労収入のある方のみ】状況報告書に添付するその月の就労収入が分かる書類（給与明細書等）の写し
- 3 【全員】年金や児童手当等の手当収入、世帯員の方の収入がある場合は収入がわかる書類の写し
- 4 【全員】職業相談確認票（〇月分）
- 5 【全員】常用就職活動状況報告書（〇月分）
- 6 【全員】住居確保給付金相談シート